

番 号	23-19	申 請 者	中山 恵美
<p>【審査申請課題】</p> <p>在宅支援を目的とした超重症心身障害児の家族が抱える問題点 ～家族生活力量アセスメントスケールを用いて～</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>当病棟で、在宅支援を行い、在宅生活を送っている超重症心身障害児は年々増えており、毎年、3～4名の超重症心身障害児が在宅支援を目的にて入院する。</p> <p>健康問題を抱えている児と共に生活していけるようにと、家族が健康生活を営むための知識、技術、対人関係、情動、行動を把握する必要がある、家族の生活力量を共通の尺度で客観化できるようにしたツールである家族生活力量アセスメントスケールを用い、在宅支援患者の家族の抱える問題点を明らかにしたいと思い研究に取り組む。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-20	申 請 者	岡本 祐香里
<p>【審査申請課題】</p> <p>心臓リハビリテーション導入にあたる看護師の思いの変化の実際と今後の課題</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>心臓リハビリテーションを導入する段階での不安感や葛藤の構造・要因を分析し、今後新たなことを立ち上げる時に必要な関わりについて明らかにしたいと思い、本研究に取り組みたいと考えた。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-21	申 請 者	坂田 久里子
<p>【審査申請課題】 一般病棟でのターミナルケアに携わる看護師の心理</p> <p>【審査課題の概要】 当病棟スタッフは、ターミナル期、慢性期、急性期患者の入り混じった一般病棟であり、煩雑な業務の中、ターミナル期の患者に対してどう接したらいいのか分からない、患者が満足できる最期が迎えられたのか疑問が残る、ホスピスで十分な看護を受けてもらう方が良かったのではないかなど、自身の看護に迷いを感じている様子も見受けられる。このことから当病棟でターミナルケアに携わる看護師が、どのような心理を抱いているのか把握し、今後のターミナルケアに活かしたいと考え、研究に取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-22	申 請 者	中嶋 麻貴
<p>【審査申請課題】 整形外科病棟での遊びのリテーションが及ぼす効果 ～認知症患者の精神的安定を目指して～</p> <p>【審査課題の概要】 当病棟では多くの高齢者が入院し、手術を受けている。入院により環境が変化するため、周囲とのコミュニケーションの場も減少し、不安や孤独感を感じやすく、「さみしい」「家に帰りたい」「誰も会いにきてくれない」などの発言が聞かれ、不安や怒りなどからベッドから降りたりするなどの危険行為が見られていた。危険行為が見られた際は車椅子に移乗し看護師と共に行動するなど対応をとっていたが、治療の必要性を理解することが出来ず、不安や孤独感を軽減する十分な対応が出来ていないと感じていた。 今回当病棟では遊びリテーションを取り入れることで、短時間ではあるが、認知症高齢者の感じている不安や孤独感を軽減する関わりができるのではないかと考えこの研究に取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-23	申 請 者	櫛川 環
<p>【審査申請課題】</p> <p>気管カニューレ装着する患者の自己抜去を予防する方法の検討</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>気管カニューレの自己抜去リスクの高い患者において、適切なチューブ管理を行うために、方法の検討実施を行う。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-24	申 請 者	工藤 留美
<p>【審査申請課題】</p> <p>肺がん患者の悪い知らせにおける看護記録の現状と問題点の把握</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>A病棟では肺がん患者が半数を占めており、入院中ががんの告知や再発、積極的治療の中止など様々な場面で悪い知らせを患者・家族へ伝える場面が増加してきている。先行研究や文献において、悪い知らせを患者に伝える際の看護師の役割について、意思決定の支援、家族の心理的援助、医療チームでのサポートなどが必要であることが明らかにされている。医療チームの中で一番患者・家族の近くにいる看護師が充実した記録をすることで、チーム全体で情報共有ができ、より個別性のあるケアが提供できると考える。</p> <p>A病棟の現状として肺がん患者の悪い知らせに関する記録が残せていないことがあり、スタッフ全員が同じ視点で情報を共有することが出来ていないことが考えられた。よって、悪い知らせに関する看護記録の現状と問題点を明らかにしたいと考え、本研究に取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-25	申 請 者	坂本 真紀
<p>【審査申請課題】</p> <p>筋緊張亢進がみられる重症心身障害児（者）への取り組み ～筋緊張亢進させる要因の検討と対処～</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>筋緊張亢進時の対象を取り巻く環境について情報収集することで、筋緊張亢進の要因を明らかにする。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-26	申 請 者	河崎 昭子
<p>【審査申請課題】</p> <p>閉鎖式気管吸引法の有意点の検証 ～閉鎖式気管吸引法と開放式気管吸引法との比較～</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>本研究の目的は、A病棟において閉鎖式気管吸引と開放式気管吸引の現状を比較し、どの吸引方法が有用であるかを検討する。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-27	申 請 者	上妻 美由紀
<p>【審査申請課題】</p> <p>神経筋難病疾患の患者に看護ケアに対するアンケート調査を行って</p> <p>【審査課題の概要】</p> <p>意思疎通の可能な患者に満足度調査を行い、看護ケアに対する満足度が低い部分を明らかにする。</p>			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-28	申 請 者	松本 知優
【審査申請課題】 火災発生時対応における避難訓練を通じた手術室看護師の意識変化の 検証			
【審査課題の概要】 手術室における避難訓練を通してスタッフの意識変化を明らかにする。			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-29	申 請 者	青木 大和
【審査申請課題】 カテキンによる腸内環境改善への試み			
【審査課題の概要】 長期療養生活を送っている超重度心身障害児（者）は自力での排泄コン トロールが困難であり、対象児2名は、酸臭を伴う泥状便～水様便を1日 に数回排泄しており、皮膚トラブルがみられる。そこで小児に対するカテ キン使用により、腸内環境改善し便の性状の変化を明らかにする。			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		

番 号	23-30	申 請 者	戸上 聖美
【審査申請課題】 消化器疾患の術後患者への退院指導の実態			
【審査課題の概要】 A病棟では、看護師経験年数1年目から20年目以上の看護師が勤務し ており、主にパンフレットを用いた退院時指導を行っている。自分の退院 指導を振り返ると、パンフレットの内容を説明するだけで、患者の個別性 にあった指導ができていなかったのではないかと思った。そのため、退院 指導を行うことで、患者は退院するために納得のいく指導が受けられてい るか、患者が退院後自己管理できるために理解できるような指導ができて いるか疑問に思った。また、病棟の看護師がどのように退院指導をしてい るかに対し興味があった。よって、退院指導の実態を明らかにしたいと考 え今回この研究に取り組んだ。			
審査結果	承認（平成23年8月8日）		